



自他の生命を尊重する心を育成する

人間としての生き方について関心も高まるこの時期の生徒に、乳幼児や人生の先輩たちと触れ合ったり、医師や看護師などから生命に関する話を聞く機会をもったりすることなど、自他の生命への尊敬、尊さを深く考えさせ、かけがえのない自他の生命を尊重する心を育成する取組が求められる。人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培っていくことは、豊かな心をはぐくむことの根本に置かれる課題の一つである。

規範意識を育てる

社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識を確実に身に付けさせるとともに、民主主義社会における法やきまりの意義やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育てる指導が重要である。

社会参画への意欲や態度を身に付ける

地域の人々との人間関係を問い直したり、職場体験活動やボランティア活動などの体験活動を生かしたりするなどして、社会形成に主体的に参画しようとする意欲や態度を身に付けていくことが大切である。

国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける

郷土や国ではぐくまれてきた優れた伝統と文化などのよさについて理解を深め、国際的視野に立って、他国の生活習慣や文化を理解するとともに、国際社会の中で独自性をもちながら世界に貢献できる国家の発展に努める日本人として、主体的に生きようとする態度を身に付けていくことが求められる。

中学生の時期は、人生の理想や目的、学習や進路、人間関係などにかかわって、悩みや葛藤等の心の揺れを繰り返しながら人間としての生き方について考えを深めていく。したがって、悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、心理的な側面も含めた人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを一層深められるような指導への配慮が必要である。

なお、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などは、生徒が実際の職場や、社会集団、自然とのかかわりの中で自分と向き合い、社会の一員であることを実感する機会を提供し、道徳性の育成に役立つため、総合的な学習の時間や特別活動との関連に配慮する必要がある。